

## 1. 起動と終了

Outlook Express Simple Recovery Series

# Outlook Express 消えたメールの復元

## ユーザーズガイド

Ver1.00 2008.08

### 目次

1. 起動と終了 .....	1
2. 基本的な使い方 .....	2
3. なぜメールが消えるのか .....	5
4. メールの復元処理方法 .....	6
5. その他の技術情報 .....	7
6. このソフトウェアについてのお問合せ .....	8

Outlook Express 消えたメールの復元をダウンロードして頂きありがとうございます。

Outlook Express 消えたメールの復元は、Outlook Express で一部のメールが消えてしまった場合にメールを DBX ファイルからメールデータを EML ファイルに抽出し、メールを復元するツールです。

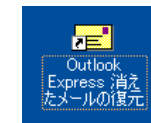
Outlook Express Simple Recovery Series は、シェアウェアのメール復元ソフト「ふくちゃん」からメールの復元部分のみを切り出してフリーソフトとして提供しています。フリーソフトですので、誰でも自由に使用することができます。

### 1. 起動方法

[スタート] ボタンから、[すべてのプログラム] - [Outlook Express 消えたメールの復元] - [Outlook Express 消えたメールの復元]を選択することで起動することができます。



インストール時に「デスクトップ上にアイコンを作成する」をチェックした場合は、デスクトップ上のアイコン「Outlook Express 消えたメールの復元」をダブルクリックしても起動することができます。



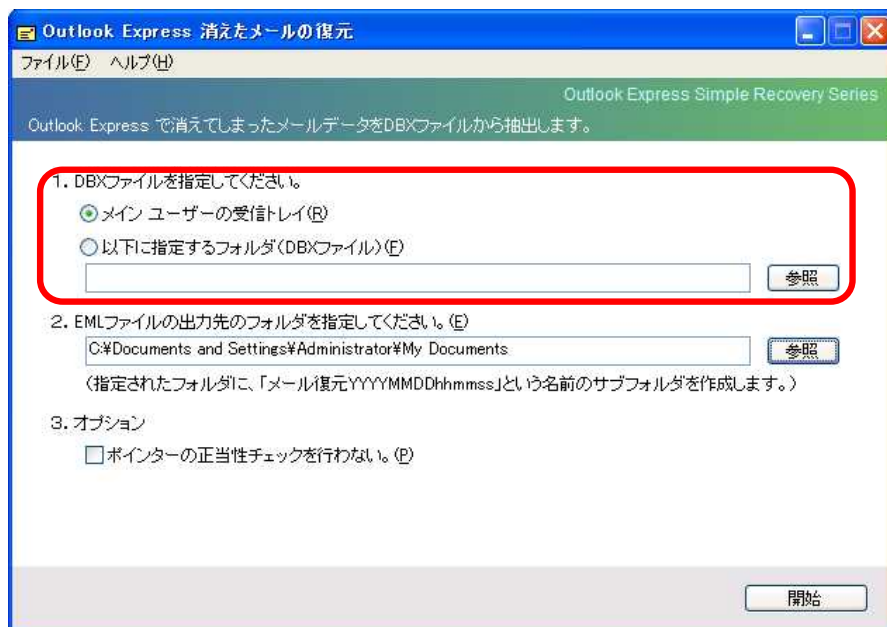
### 2. 終了方法

「ファイル」メニューの「終了」コマンドから終了することができます。(復元処理中は、選択することができません。)

あるいは、タイトルバーの右端にある閉じるボタン(「×」と書かれたボタン)をクリックしても終了することができます。(復元処理中は、終了するか確認するメッセージが表示されます。)

## 2. 基本的な使い方

1. 起動されたら表示される以下の画面において、復元する DBX ファイルを指定します。



DBX ファイルは、初期値として OE を起動した時に表示されるユーザーの受信トレイが選択されています。

ただし、実際には現在使用中の受信トレイとは限らず、受信トレイ.DBX を復元します。現在使用中の DBX ファイルが、受信トレイ(1).DBX ファイルになっていても、最初に作成された受信トレイ.DBX ファイルを復元しますので注意してください。

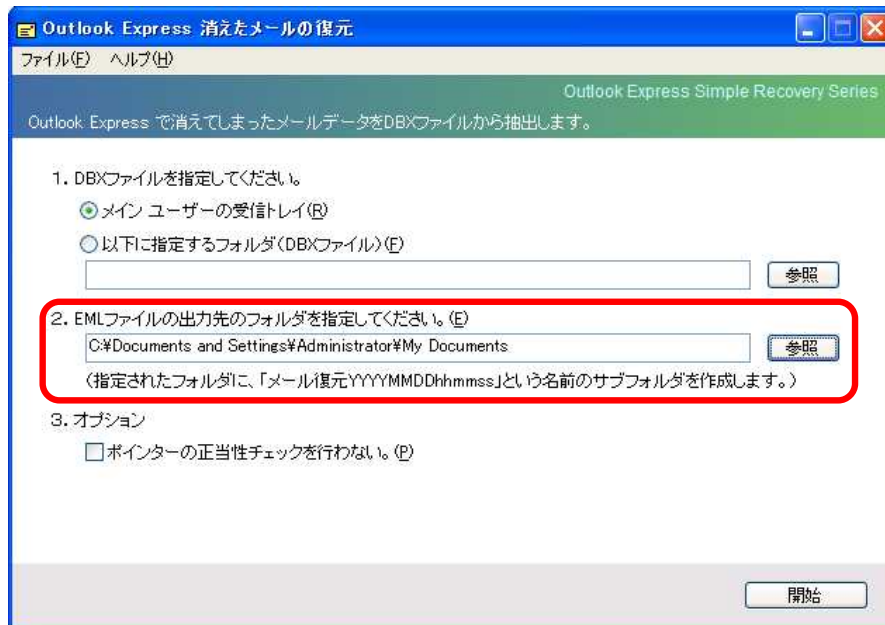
その他のフォルダを復元したい場合は、「参照」ボタンをクリックします。すると DBX ファイルを選択する画面が表示されます。



この画面では、OE のユーザ名を選択して DBX ファイルを指定することができます。この画面から選択できない、DBX ファイルは、「ファイルを開く」ボタンにより直接 DBX ファイルを指定することができます。



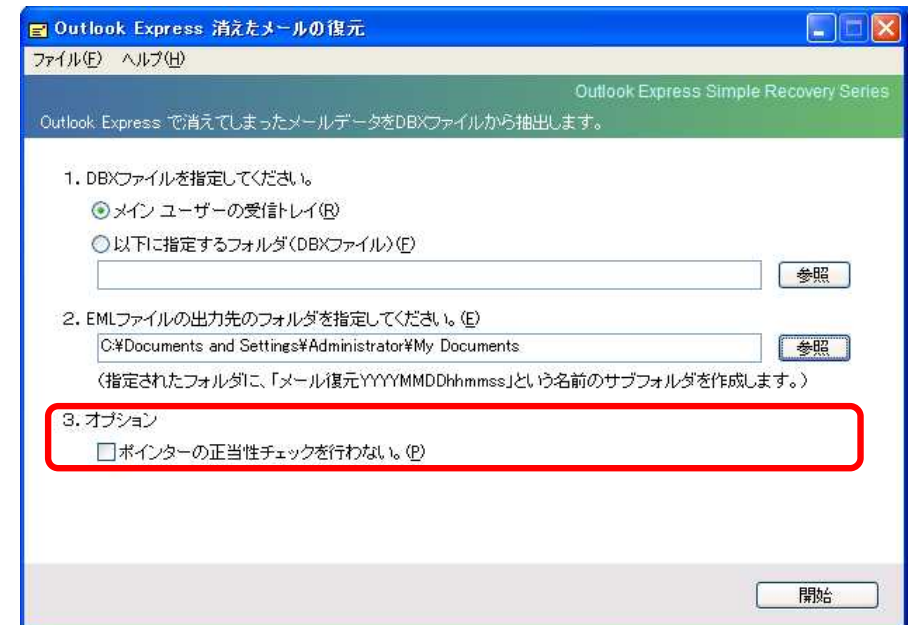
2. 次に EML ファイルを出力する先を指定します。



出力先のフォルダは、初期値としてマイドキュメントのフォルダが表示されています。変更したい場合は、「参照」ボタンをクリックするとフォルダを指定する画面が表示されます。

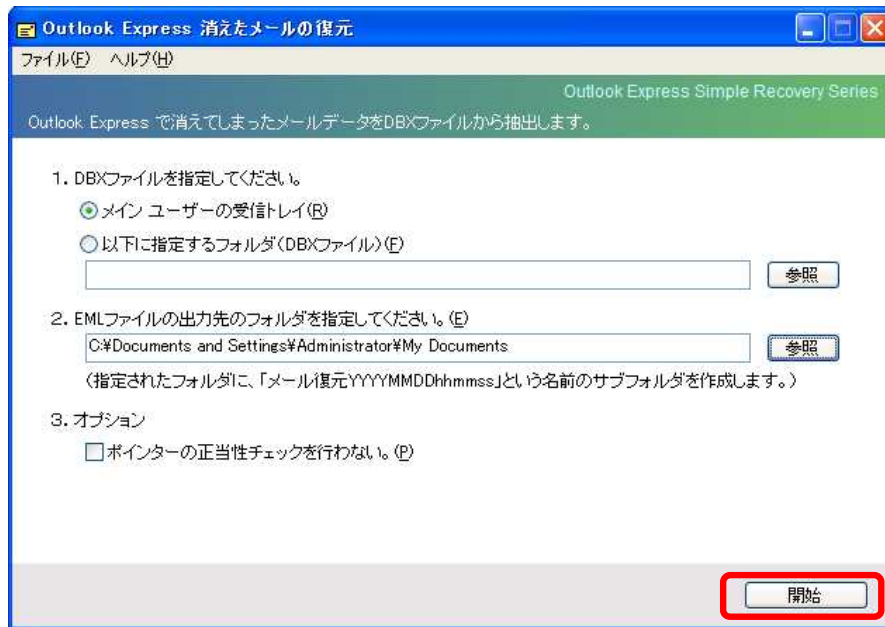


3. 最後にオプションの指定をします。通常はチェックしないください。

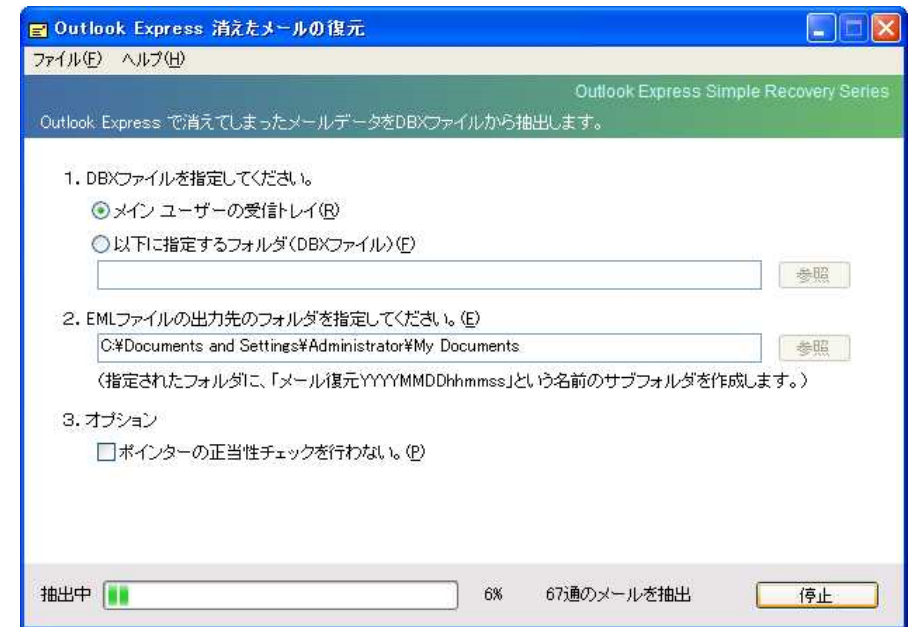


チェックを行うのは、DBX ファイルが、ファイル復元ソフトやチェックディスクで復元したファイルで、チェックなしで EML ファイルができなかった時にチェックしてください。

4. 「開始」ボタンをクリックすると復元処理を開始します。



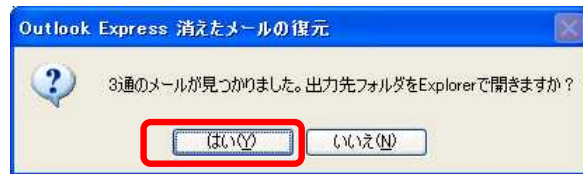
5. 復元処理中の画面は、以下のような画面になります。



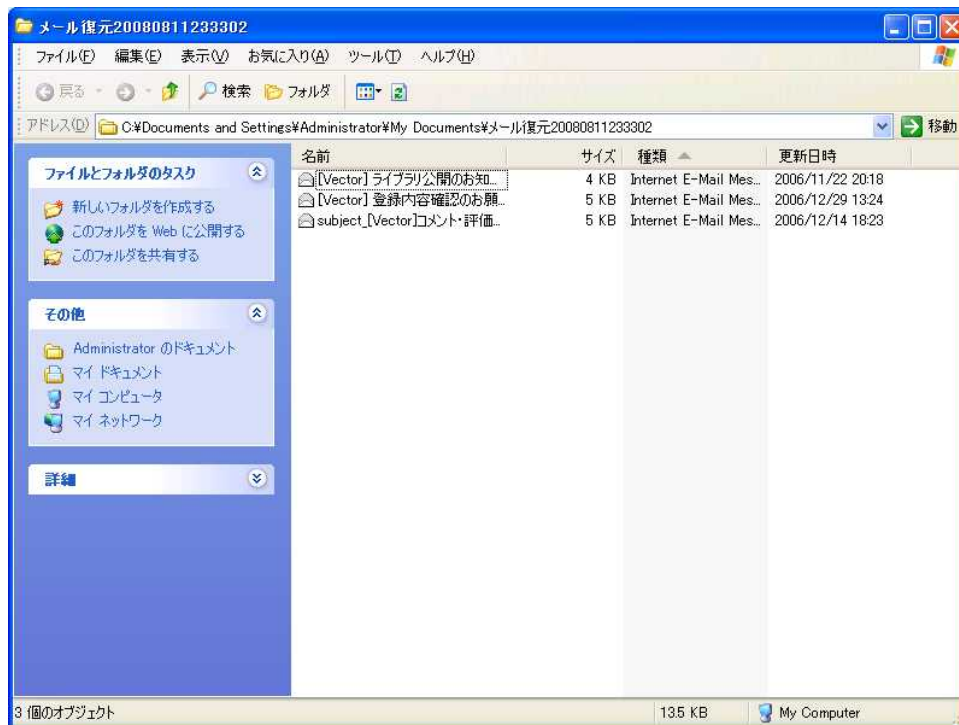
尚、ステータスバーの表示は、復元処理の進捗によって以下のように表示されます。

- ・ 抽出中（プログレスバーと%表示あり）
- ・ 重複データを削除しています。
- ・ リネーム中（プログレスバーと%表示あり）

6. 復元処理が終了すると、以下のメッセージが表示されます。



7. 「はい」をクリックするとエクスプローラが表示されます。

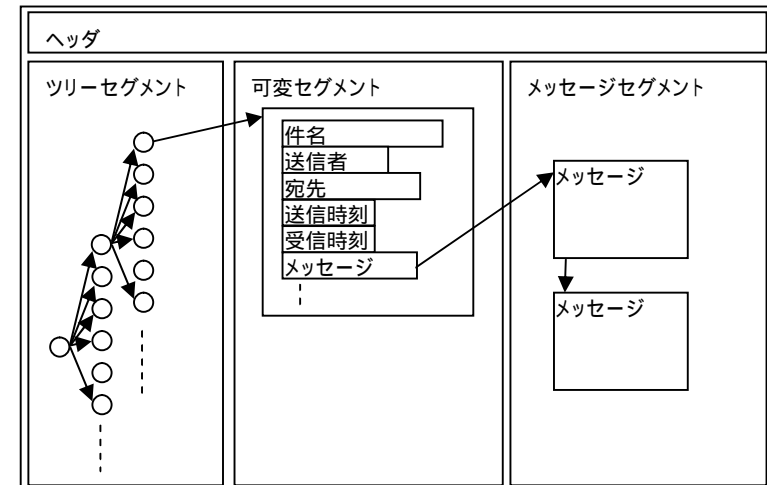


8. エクスプローラ上の EML ファイルをダブルクリックすると、メールの中身を見ることができます。また、Outlook Express のメインウィンドウにドロップすることで Outlook Express に取り込むことができます。

### 3. なぜメールが消えるのか

(1) DBX ファイルの構造

DBX ファイルは、簡単に言うと以下のような構造になっています。



- ・ **ヘッダ**: DBX ファイルに関する基本的な情報(各セグメントの先頭ポインタ、最終ポインタ、サイズ、削除オブジェクトへのポインタ etc)が書かれます。
- ・ **ツリーセグメント**: 全てのメールの可変セグメントへのポインタがツリー構造で格納されます。
- ・ **可変セグメント**: OE のメール一覧ですばやく表示できるように、件名、送信者、宛先、送信時刻、受信時刻など、各メールの主な項目が可変長のデータとして格納されています。
- ・ **メッセージセグメント**: メールの実際の送受信されるデータが、512 バイト毎に分割されて格納されます。

詳しくは、こちらのホームページを参照願います。 <http://oedbx.aroh.de/> (英語です。)



## (2) なぜメールが消えるのか？

DBX ファイルからメールが消えてしまうのは、ツリーセグメントで全てのメールのポインタを管理しているために発生しやすくなっています。

ツリー構造になっているため、ツリーの上部にあるポインタが 1 つなくなっただけで、それにつながっている全てのポインタが見えなくなってしまう。よく、ある時期以前のメールが全て消えたという話を聞きますが、ツリーの上部のポインタが消えることで大量のデータが見えなくなってしまう。

## (3) どんなときに消えるのか？

一番多く聞くのが、最適化を行った後に、OE がハングアップして、再度 OE を起動したらメールが消えていたというケースではないかと思います。(おそらく、これは OE の不具合によるものだと思います。)

その他にも、ツリーセグメントを更新するようなケース(メールの受信、コピー、移動、削除など)で、OE のアプリケーションエラー、OS の停止(ブルースクリーン)、電源断、タスクマネージャからの OE の終了など、処理が途中で止まってしまうと発生する可能性があると思います。(性能の低い PC で、OE が無応答になっても、安易にタスクの終了は行わないようにしましょう。)

## (4) どういうときに消えやすいのか？

最適化を行う場合に発生する場合があります。Microsoft では、最適化時に以下の条件のときに発生しやすくなると言っています。

- ・ DBX ファイルが 1GB を超えている。
  - ・ PC の電源を 1 日中入れて OE を動かさっぱなしにしている場合。
- 又、DBX ファイルの最大容量は、2GB でそれ以上は、メールデータを格納することはできませんが、2GB くらいになると、DBX ファイル自身おかしくなる場合もあるようです。

## 4. メールの復元処理方法

それでは、このプログラムで、どのようにメールの復元を行っているかを説明します。

### STEP1 メッセージセグメントのメッセージを直接検索

メールの復元処理では、ツリーセグメントからメールを辿っていくのではなく、メッセージセグメントのメッセージを直接検索します。

メッセージセグメントの 1 つのレコードの構成は以下のようになっています。

ヘッダ		
項番	種類	記述
(1)	Integer	オブジェクトマーカー (オブジェクトマーカーのアドレス)
(2)	Integer	本体の長さ (512)
(3)	Integer	本体のテキストセグメントの長さ (先頭、中間は 512、最終は 512 以下)
(4)	Integer	次のメッセージオブジェクトへのポインタ
本体		
項番	種類	記述
(5)	text	テキストセグメントの長さは項番(3)に格納されている。
(6)		もし項番(3)が項番(2)よりも小さい場合は、空きスペース

検索処理は以下のように行います。

- DBX ファイル全体を、項番(2)X('00020000')がないかを検索します。
- 項番(2)の次の 4 バイト(項番(3))が、1 から 512 であることをチェックします。
- 項番(2)の前の 4 バイト(項番(1))が、項番(1)のアドレスと一致するかをチェックします。(ポインタの正当性チェックを行わないがチェックされている場合を除く)
- 項番(4)のポインタをたどって、メッセージを組み立てます。

**STEP2 重複メールの削除**

メッセージの検索が終わったら、重複するメールを削除します。

たとえば、メールデータが2つあったとします。メール A が3レコード使用し、メール B が2レコード使用して右図のように並んでいるとします。

A-1
B-1
A-3
B-2
A-2

これを検索すると、最初に A-1 のレコードが見つかりメールを復元します。( )、次に A のメールに注目すると、A-3 のレコードが見つかるのでメールを復元します。( )最後に A-2 のレコードが見つかるのでメールを復元します。( )

～ で復元したメールは以下のようになります。

A-1    A-2    A-3

A-3

A-2    A-3

この3つのメールから、 と のメールを廃棄する処理が、重複メール削除処理になります。

**STEP3 EML ファイルのファイル名、更新日付を変更**

出来上がったメールデータは、EML ファイルとして保存していますが、メールの件名、受信時刻から、EML ファイルのファイル名と更新日付を変更します。

**5. その他の技術情報****(1) フォルダの全てのメールが消える場合**

このプログラムでは、一部のメールが消える場合の復元を行います。全てのメールが消えた場合は、以下の点に注意してください。

受信トレイなどの Outlook Express が標準で使用するフォルダでは、受信トレイ.dbx ファイルにアクセスできないと、受信トレイ(1).dbx ファイルが作成され以前の受信トレイ.dbx ファイルは使用されなくなり以前あったメールが全て見えなくなります。この場合は、古い受信トレイ.dbx ファイルからメールを取り出すことでメールを取り出すことができます。又、ユーザ作成のフォルダ自身が消えてしまった場合は、フォルダを管理している Folders.dbx が壊れた可能性があります。この場合は Outlook Express から見えないだけで、dbx ファイルが残っていると思いますのでメールの復元は可能です。

**(2) フォルダの最適化をした後では復元はできません。**

メールが消えてしまった後で、最適化を行った場合は、メールの復元はできません。最適化は、正常なメールのみを dbt ファイルにコピーし、dbt ファイルを dbx ファイルにリネームすることにより、ファイルサイズを小さくする処理を行います。従って、最適化した後では、正常なメール以外に復元できるメールはなくなります。

**(3) 作成した EML ファイルは手動で削除してください。**

開始ボタンをクリックすると、EML ファイル出力先フォルダに、「メール復元 YYYYMMDDhhmmss」というフォルダを作成して、このフォルダに EML ファイルを作成します。たとえ中断した場合でも、このフォルダはこのプログラム削除しませんので、不要になったら手動で削除してください。

**(4) レジストリの使用について。**

このプログラムでは、インストーラが使用する以外にレジストリを使用することはありません。又、INI ファイル等も作成しません。

## 6. このソフトウェアについてのお問合せ

このプログラムに関してトラブル、質問等がございましたら、以下の宛先までご連絡ください。

- ・ e-mail : [starfish@wish.nifty.jp](mailto:starfish@wish.nifty.jp)

トラブルが発生した場合は、以下の項目をご確認の上ご連絡をいただきますと、より迅速な対応が可能となります。

- ・ パソコンのメーカーと機種名(型番)
- ・ OS の種類とサービスパックのインストール状況
- ・ プログラム名とのバージョン番号
- ・ トラブルの内容
- ・ 何をしているときに発生したか、その時の手順をお知らせください。
- ・ エラーメッセージが表示されている場合は、その内容を正確にお知らせください。